

# 平和島駅周辺地区グランドデザイン (素案)

令和6年7月時点

# 目次

## 1. グランドデザインについて

- 策定の目的
- グランドデザインと対象範囲
- 上位・関連計画等における本地区の位置づけ
- 本地区の広域的な位置
- 本地区のまちの成り立ち

## 2. 平和島駅周辺地区のまちの現状と課題

- 人口構造の変化
- 土地利用
- 市街地の特徴
- 地区資源
- 地域の声
- まちが抱える主な課題

## 3. まちの将来像

- 将来像

## 4. まちづくりの基本的な方針と具体的な取組

- 5つの分野別方針
- 方針別の取組
- 取組の位置イメージ

## 5. 将来像の実現に向けて

- 協働によるまちづくりの推進
- 実施手順(ロードマップ)

## 6. 資料

- 策定の経過

# 1. グランドデザインについて

## 策定の目的

平和島駅は、京急本線の特急列車も停車する主要駅の一つで、区内外と臨海部を繋ぐ重要な交通結節拠点です。駅周辺には、都心と横浜方面を繋ぐ第一京浜（国道15号線）と物流拠点である臨海部に繋がる環状七号線が交差し多くの車両が往来しています。

駅西側は、商店街・住宅地が形成され、駅東側の美原通りは、歴史を感じる旧東海道のイメージで整備された商店街が連なり、第一京浜沿いには、駅を中心に産業施設が集積するとともに高層住宅が立地しています。臨海部方面には、大森ふるさとの浜辺公園、平和の森公園、平和島公園など大規模な公園が整備され、潤いや憩いの空間としての公共施設も豊富です。

一方、これまで発展してきた平和島駅周辺も、老朽化した建物の更新、細街路や駅利用者の歩行者空間の確保、バス停留所やタクシー乗降場の利便性の向上など、まちの機能更新が課題となっており、これらの課題解決にあたってはSDGsの考えに立った持続可能な魅力のあるまちづくりの実現に向けた取組が求められています。

地域住民や関係事業者と連携し、まちの様々な課題を共有し、駅周辺の特色を活かしたにぎわいの創出や安全・安心で住みやすいまちづくりに取り組むための指針として、概ね20年後の実現を目指す「平和島駅周辺地区グランドデザイン」を策定します。

## グランドデザインと対象範囲

グランドデザインは、区民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進めていくため、地区の特徴を捉え、課題を整理した上で、地区の将来像を描くとともに、その実現に向けた方針と幅広い分野の具体的な取組を示していきます。

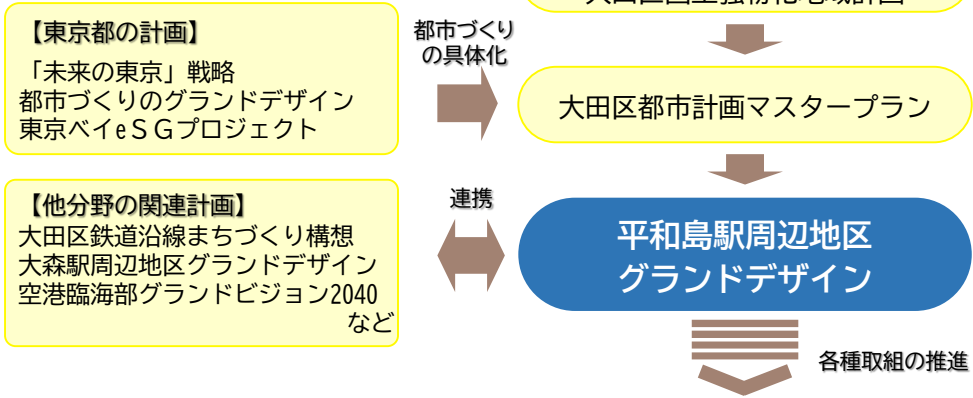
グランドデザインの策定エリアは、平和島駅を中心とする平和の森公園など大規模公園を含む範囲とします。



グランドデザイン策定エリア

## 上位・関連計画等における本地区の位置づけ

グランドデザインは、区全域の都市計画の基本的な方針を示す「大田区都市計画マスタープラン」に即し、平和島駅周辺地区の概ね20年後の2040年代に向けたよりきめ細やかな方針や取組を定めたものです。



## 将来像の実現

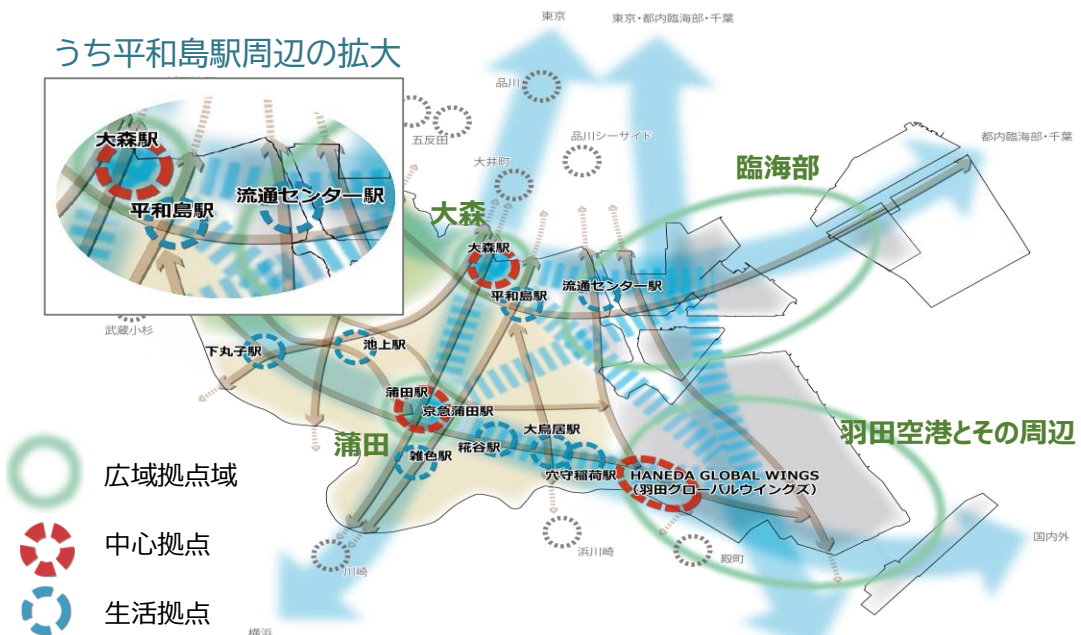
### 【大田区における本地区周辺の役割】

大田区都市計画マスタープランにおいて、本地区周辺は「生活拠点」に位置づけられ、生活を支える多様な機能の集積を進めるなど、地域特性を活かしながら、生活の中心となる拠点として、維持・強化・活性化を図っていくことが求められています。

また、広域拠点域の1つである臨海部への玄関口の役割もあります。

## 大田区都市計画マスタープランにおける全体将来都市構造

### うち平和島駅周辺の拡大



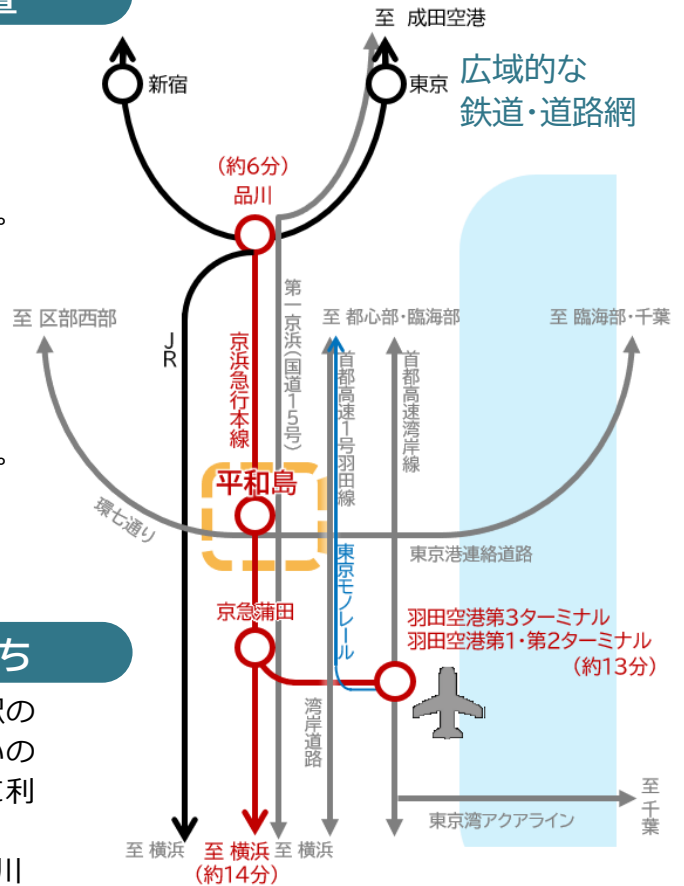
## 本地区の広域的な位置

### 【鉄道】

平和島駅は京浜急行本線・特急で、品川駅まで約6分、横浜駅まで約14分、羽田空港まで約13分と鉄道でのアクセス性が高い駅です。

### 【道路】

本地区は広域的な高速道路網に恵まれており、都心部、臨海部、千葉・横浜方面などから自動車による利便性も高い位置にあります。



## 本地区のまちの成り立ち

明治後期に鉄道が開通され、駅の陸側は農地、海側は旧東海道沿いの宿場、海苔養殖、海水浴場などに利用されていました。

その後、国道の整備、鉄道の品川駅～浦賀駅の直通運転、1964年の東京オリンピックを契機とした環状七号線の整備などにより、市街化が進みます。

一方海側は、昭和に入ってから土地利用が大きく変化し、人口島が次々と造成されました。海岸線が遠ざかり、製造業や流通業、大規模な公園などを中心とした広大な臨海部が誕生しました。

### 平和島駅周辺と臨海部のかつての様子

大森海岸水浴場  
(昭和初期)



平和島温泉会館  
(昭和48年)



大田区老人クラブ連合民踊大会

海苔干しの様子  
(昭和10～30年代)



平和島公園  
(平成2年)



美原通り  
(昭和39年)



大森本町1丁目

大田市場 競り風景  
(平成2年)



平和島一丁目の工場群  
(昭和48年)



大森スポーツセンター  
(平成20年)



## 2.平和島駅周辺地区のまちの現状と課題

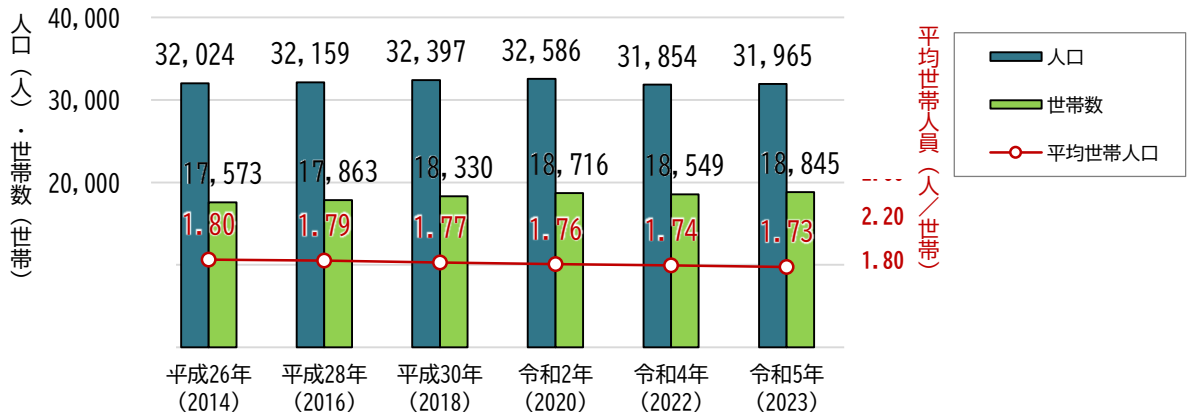
### 人口構造の変化

現在、本地区の人口（※）は約3万2千人、世帯数は1万9千世帯です。この10年間、人口はおおむね横ばいであり、世帯数は微増しています。

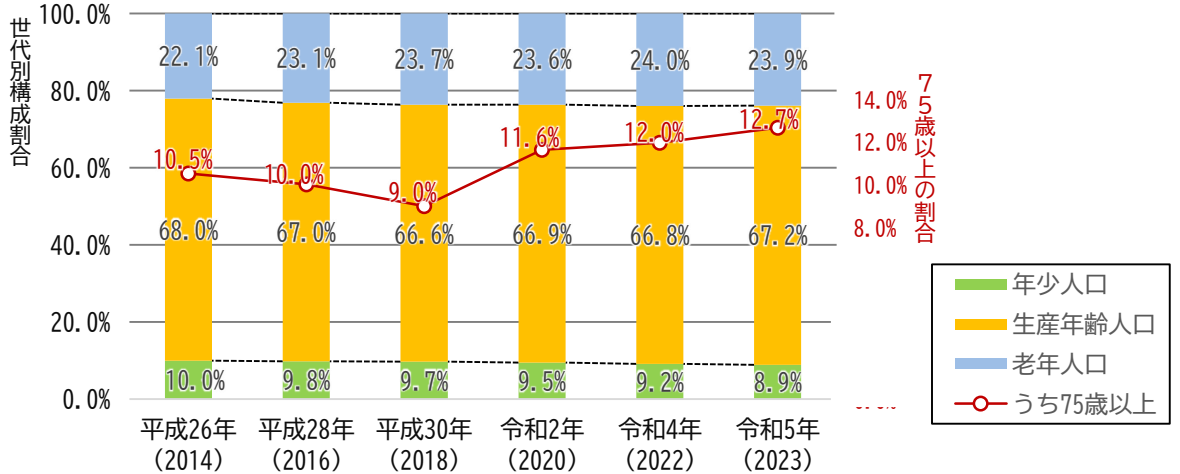
世代別の人口構成はさほどの変化はみられませんが、年少人口に着目すると一定した減少がみられ、区全体の11%（令和5年）より低い状況にあります。

また、ファミリー世帯を形づくる30・40歳代の人口が減少しています。

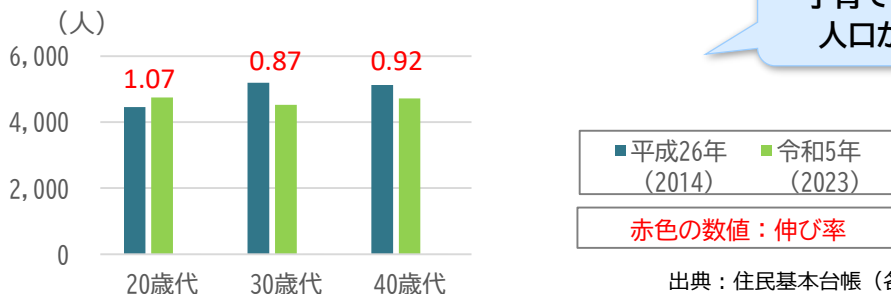
#### 人口・世帯数の推移



#### 世代別構成割合の推移



#### 年代別の人口の変化(20～40歳代)



Point!

子育て世代の人口が減少

出典：住民基本台帳（各年1月1日現在）

※統計的データは以下に示す町丁目の計とする。

大森東1、大森西2、大森北3、大森北6、大森本町1・2、平和島4・5丁目

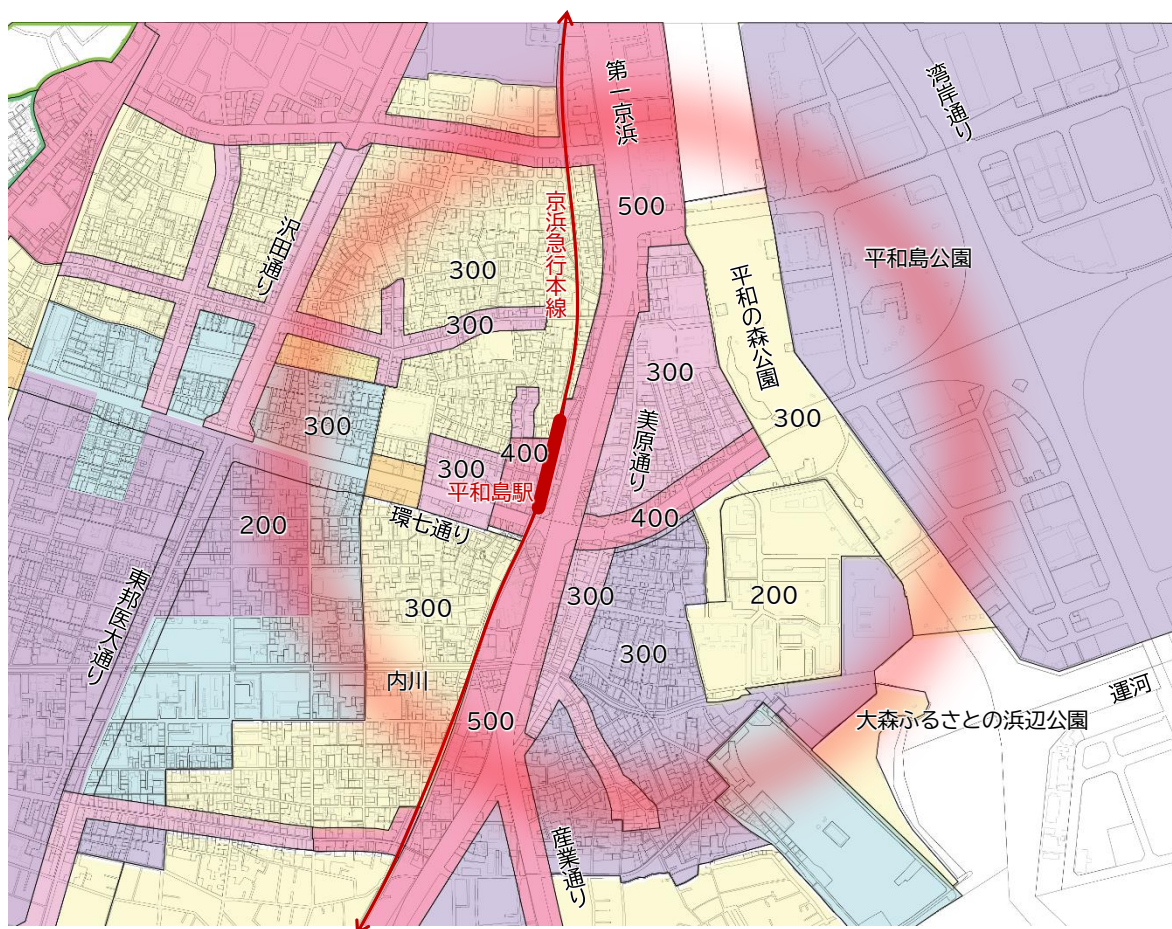
## 土地利用

### (1) 用途地域の指定状況




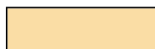

用途地域は、建物の誘導や規制を行うことでまちづくりの方向性を決定づける大きな要素の一つとなります。

本地区は主に、第一京浜、環状七号線の沿道及び駅西側の一部は商業その他業務の利便増進を図る商業地域（※1）、美原通り沿道をはじめとする商店街等は近隣商業地域（※2）の指定、その他の地区は住居の環境を保護する第1種住居地域（※3）の指定が中心です。

本地区周辺の用途地域指定状況



#### 【用途地域】

	第1種住居地域		近隣商業地域		準工業地域
	準住居地域		商業地域		工業地域

出典：大田区webサイト「地域地区図（用途地域等）」

※1 商業地域：主として商業その他の業務の利便を増進するため定める地域

※2 近隣商業地域：近隣の住宅地の住民に対する日用品の供給を行うことを主たる内容とする商業その他の業務の利便を増進するため定める地域

※3 第1種住居地域：住居の環境を保護するため定める地域

## (2) 建物の用途の現況

用途地域の指定状況に応じた土地利用が図られており、平和島駅の近くと美原通り沿道においては、商業系の建物が集積していますが、その周囲は独立住宅が多くを占めている状況です。また、大森東2丁目等の準工業地域においても住宅系建物が占めている状況です。

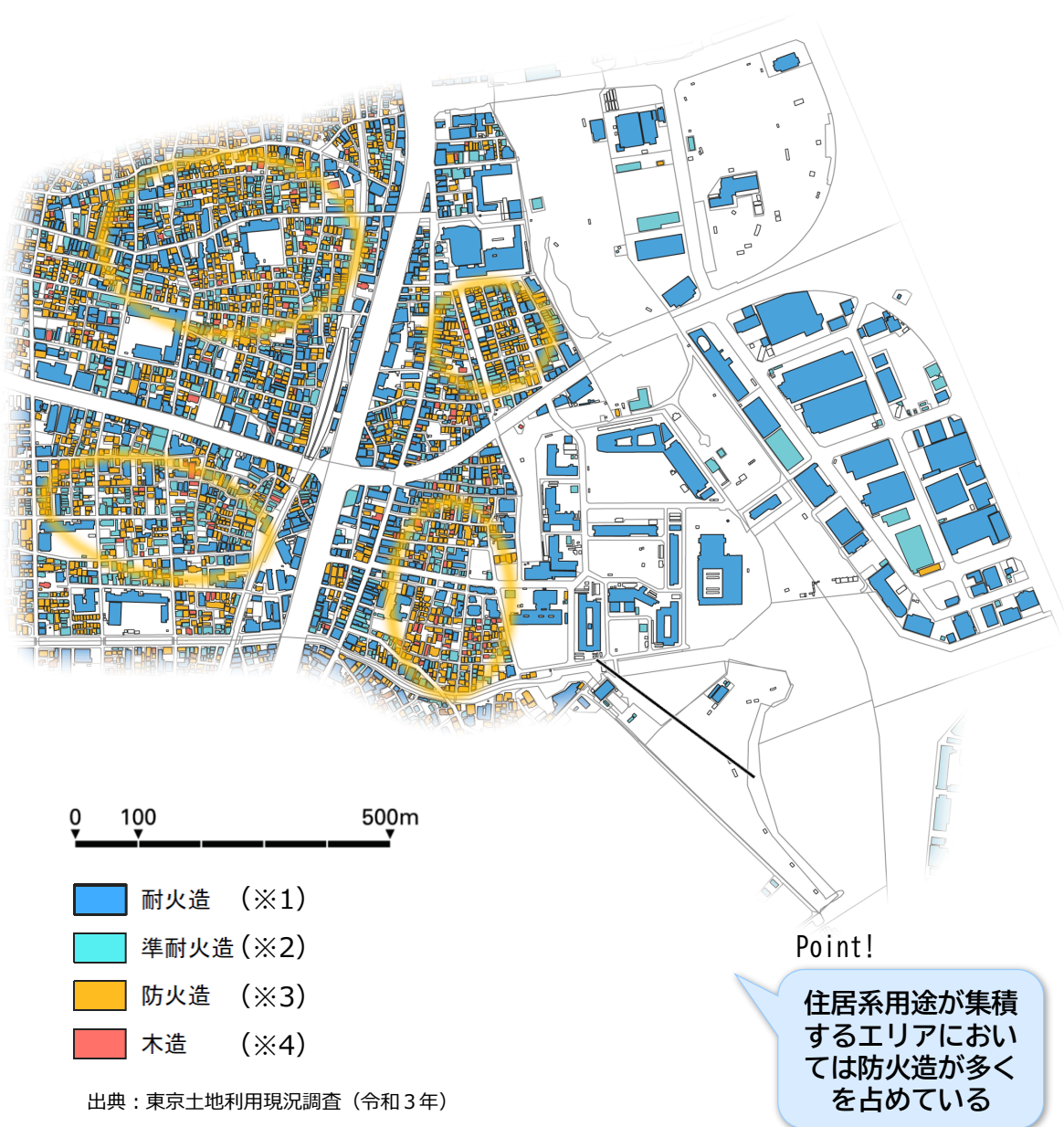




### (3) 建物の構造の現況

第一京浜や環状七号線、美原通りの沿道は耐火造の建物が多く、沿道から離れた市街地では、防火造の建物が多くを占めている状況です。

なお、道路・公園を含む公共施設以外では隙間なく建物が立ち並んでいる状況です。



※1 耐火造：耐火とは建物自体の燃えにくさをあらわしたもので、壁や床などが一定の耐火性能を備えた構造

※2 準耐火造：耐火造より少し緩やかな基準であり、通常の火災による延焼を抑制するために必要な構造

※3 防火造：防火とは周辺の建築物が火災で燃えてしまった場合、その影響を受けない（燃え移るのを防ぐ）ための燃えにくさをあらわしたもので、外壁と軒裏に防火性のある材料を使用するなど一定の要件がある。

※4 木造：構造耐力上主要な部分に木材を用いる構造

## 市街地の特徴

### (1) 平和島駅直近

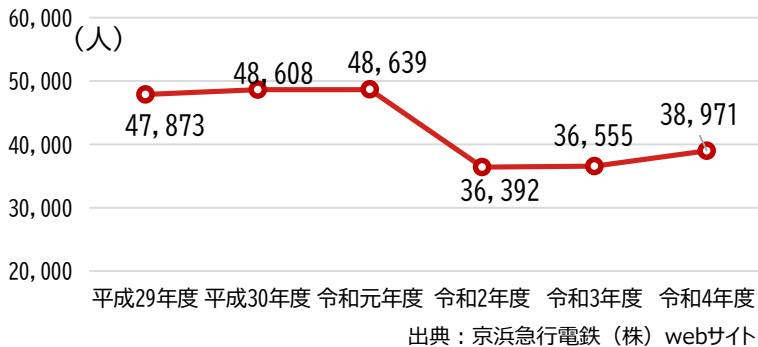
#### 【駅前空間】

駅前の滞留空間がなく、通勤時間帯において通行者の妨げとなっています。緑が少なく、交流や憩い、にぎわいの拠点性に欠けます。また、美原通りや大規模公園などの観光資源への案内が不十分です。

#### 【平和島駅の乗降客数】

平和島駅の一日平均乗降客数は、令和元年度までは4万人台で増加傾向にありましたが、令和2年度に25%減少しました。その後は回復傾向にあります。

平和島駅の1日平均乗降客数の推移



#### 【平和島駅利用の歩行者】

平和島駅の平日8時台の利用者は、5,734人/時が改札を出入りしており、路線バスの停留所がある東口を出入りする人が74.7%（4,286人）を占めます。

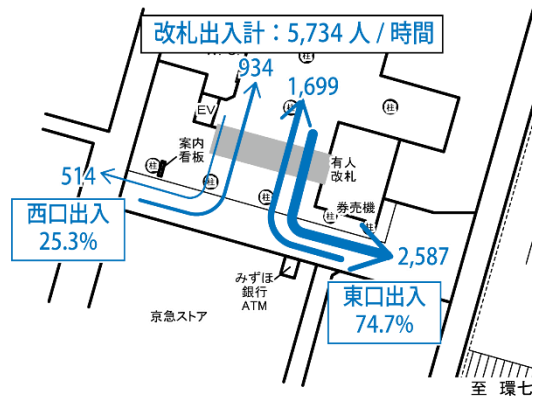
朝の通勤・通学時間帯および夕方の帰宅ラッシュの時間帯は、駅東側の第一京浜の歩道に歩行者が滞留し、これが南北方向の歩行者の通行と自転車走行を阻害しています。

平日朝8時台の平和島駅東口付近の様子



第一京浜の横断待ち

平日8時台の改札通過動線



Point!

駅前の滞留空間が不足し  
通行の妨げとなっている

### 【自転車・駐輪場】

平和島駅利用者のための駐輪場は、第一京浜の高架下（B）や鉄道の高架下（A C）にありますが、環状七号線より北側に偏在している。

また、駐輪場の将来需要に対して既存台数が不足している。

Point!

駐輪場が将来需要に対して不足している

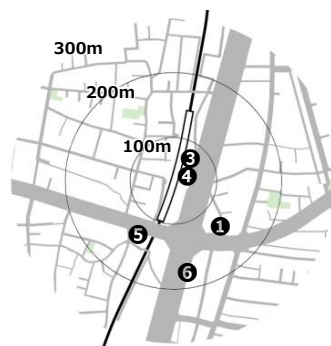


— 自転車等駐輪場  
 ..... 交差点における自転車横断

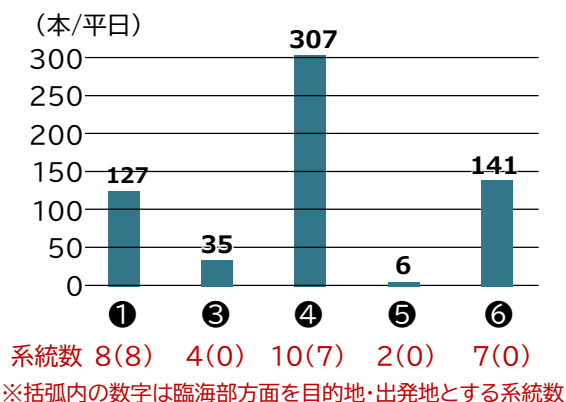
### 【路線バスの利用】

平和島駅直近の路線バスの停留所は5つあり、運行本数は臨海部方面行きが多い④が最も多く、⑥、①が続きます。

⑤や⑥は環状七号線を横断する必要があります。また、案内サインが不十分であるため、利用したい路線バスの系統の把握が難しい状況にあります。



停留所ごとの運行本数と系統数



環七通り歩道に歩行者が集中

Point!

鉄道からバス停留所等などの乗換空間の利便性が課題となっている

## 商店街

美原通りは旧東海道であり、4つの商店街があります。平成24年に実施された大田区の景観整備事業により、往時の雰囲気再現されました。現在は商業系用途の建物が集積していますが、閉店した店舗や空き店舗などもみられます。

駅西側には2つの商店街があります。平和島駅商店街は、駅近接のスーパーと一体となった地域の買い物空間であるとともに、歩行者重視の道路空間であることから、地域コミュニティによる活用の可能性があります。

美原通り



景観整備は実施済み

平和島駅商店会の通り



コミュニティの場ともなる雰囲気

## 災害

### (1) 地震に対する地域危険度

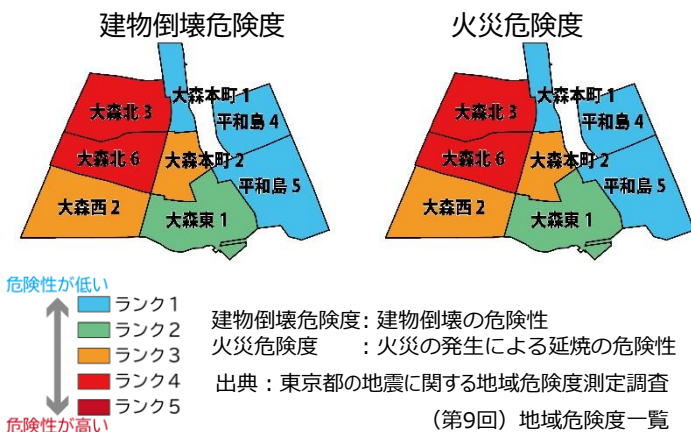
幹線道路沿道を除き全体的に低層の密集市街地で、幅員4m未満の道路が多く存在しています。

令和4年に東京都が公表した「地震に関する地域危険度測定調査」において、平和島駅周辺の地震に関する危険性を2つの指標で見ると、総じて、第一京浜より西側の危険性が高い状況にあります。

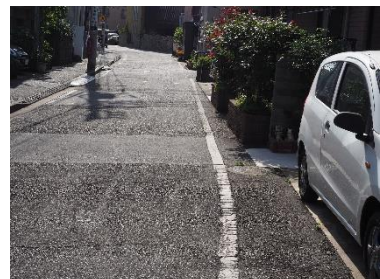
Point!

地震に関する危険ランク  
が高い地域を有する

東京都調査による  
災害時の地域危険度ランキング



住宅地内の生活道路

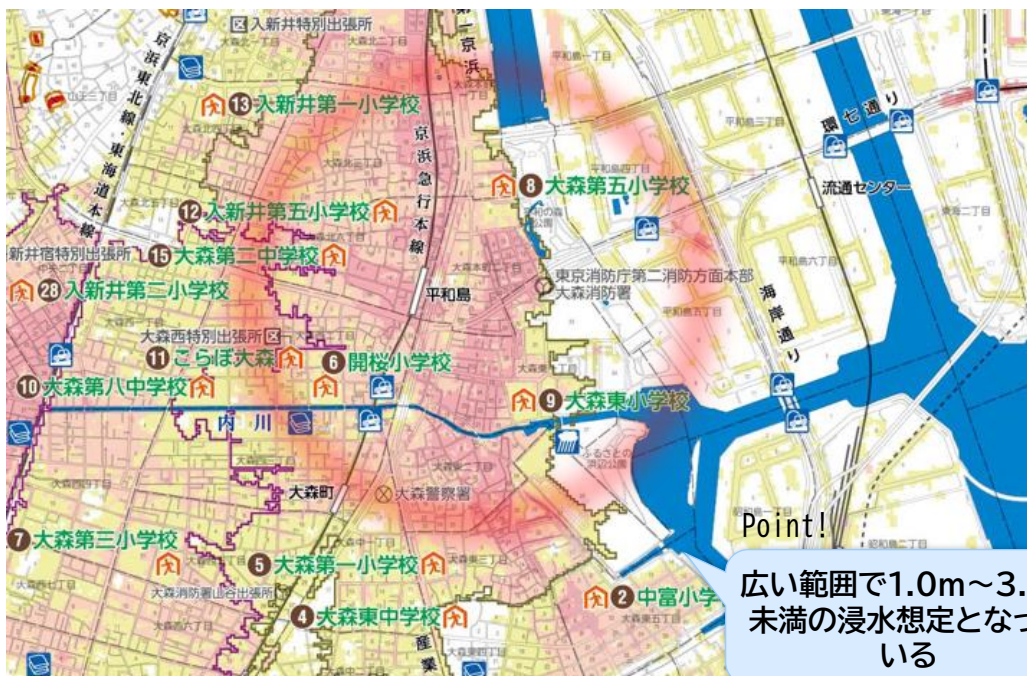


幅員4m未満の道路

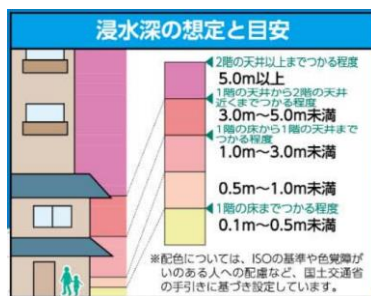
## (2) 水害

人工島が造成される以前の海岸線の西側では一定程度の浸水が予想されています。

中小河川ハザードマップ  
呑川、丸子川等流域で1時間に153mmの降雨があった場合



広い範囲で1.0m～3.0m  
未満の浸水想定となっ  
ている



凡例	
	水害時緊急避難場所(全階使用可)
	水害時緊急避難場所(条件付き使用)
	水害時緊急避難場所(土砂災害)
	雨量計設置箇所
	河川水位観測地点
	水防監視カメラ設置箇所
	土のう置場
	アンダーパス(地下道)

## 地区資源

### (1) 魅力ある施設の集積

本地区は昭和30年代まで続く明治後期の海岸線を境に、大規模な街区が成形され、それぞれ特徴のある公園やスポーツ施設、レジャー施設が整備され、広域からの利用があります。また、浜辺があることも特徴です。

平和島公園



キャンプ場

東京都区部の貴重なキャンプ場。令和4年にリニューアルし、これまでの3面から18面へ

BIGFUN平和島



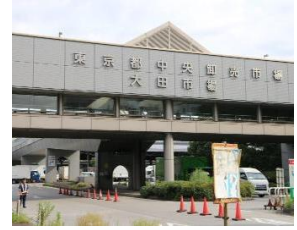
各種アミューズメント施設や飲食店その他の店舗の集合施設

大田スタジアム

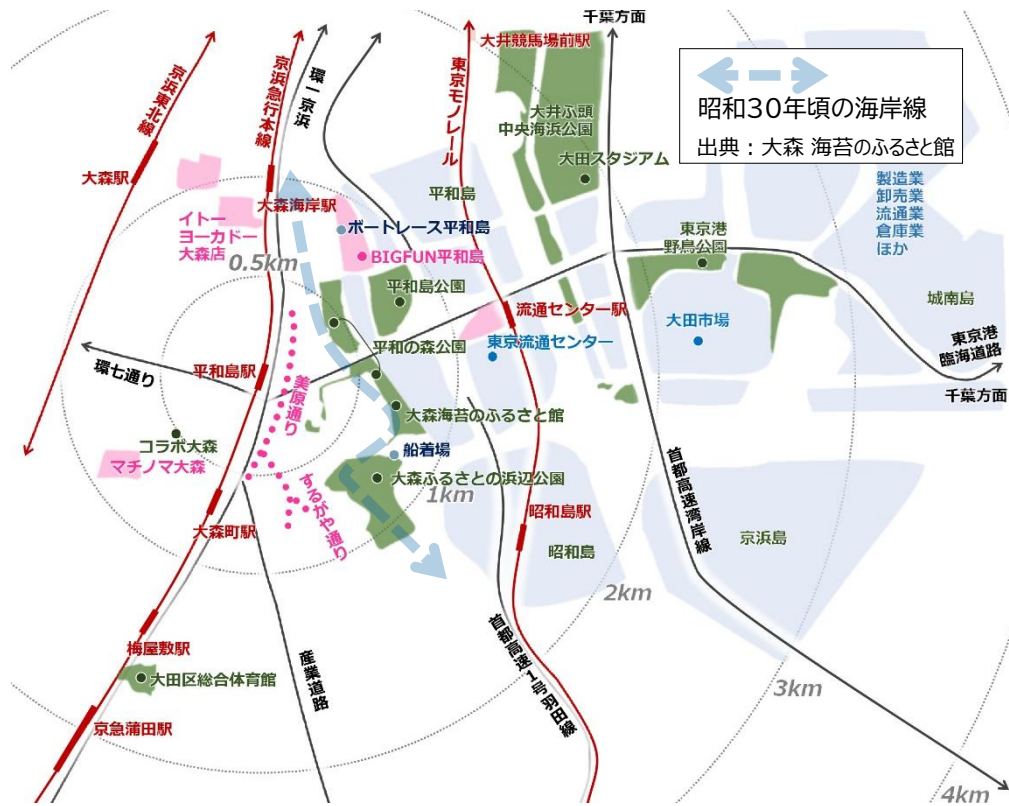


全面人工芝の野球場  
収容人数は合計で3,223人

大田市場



青果部・花き部では、日本一の取扱規模  
都民が親しめる市場



昭和30年頃の海岸線  
出典：大森 海苔のふるさと館

美原通り



旧東海道  
昭和51年に大田区文化財に指定

平和の森公園



平和の広場

環七通りを挟み南北に広がる面積9.9haの区内最大級の公園

大森 海苔のふるさと館



外観

国指定の重要有形民俗文化財「大森及び周辺地域の海苔生産用具」881点を所蔵

大森ふるさとの浜辺公園



白砂の浜辺

砂浜や干潟を持つ都内では初めての区立公園

## (2) スポーツを楽しめる施設

本地区の東側には緑量豊かな大規模な公園が南北に繋がり、森林浴とともに潮風浴も堪能できます。また、さまざまな運動・スポーツ施設があります。

平和の森公園と大森ふるさとの浜辺公園を周回するランニングコースが設置されています。また、大田区青少年交流センターには宿泊施設があります。

### スポーツを楽しめる主な施設



屋外	<b>野球</b>	野球場	<b>ビーチV</b>	ビーチバレー
	<b>外プール</b>	屋外プール	<b>Fサル</b>	フットサル
	<b>ウォーク</b>	ウォーキング	<b>RoISI</b>	ローラーライダー
	<b>Fアスレ</b>	フィールドアスレチック	<b>弓アーチ</b>	弓道・アーチェリー
	<b>児アスレ</b>	幼児フィールドアスレチック	<b>ほか</b>	その他
	<b>テニス</b>	テニス		
屋内	<b>室競技</b>	各種室内競技		
	<b>内プール</b>	屋内プール		

## まちが抱える主な課題

本地区は多くの魅力を持つ一方で、歩行者滞留スペースや交流空間の不足、整理観光資源の認知度や回遊性の不足、地区全体では狭い道路幅や住宅が密集しているなどが主な課題となっています。

### ■平和島駅周辺

- ・ 駅周辺の歩行者横断環境の改善
- ・ 駅周辺の自転車利用環境及び走行環境の改善
- ・ 駅周辺の歩行空間の形成
- ・ 臨海部との交通結節点としての機能の強化（バス・タクシー利便性向上）が必要

### ■地区全体

#### 【商店街】

- ・ 駅周辺の商店街や地域の活性化
- ・ 歴史的資源(旧東海道)を活かしたまちなみの形成

#### 【建物・防災】

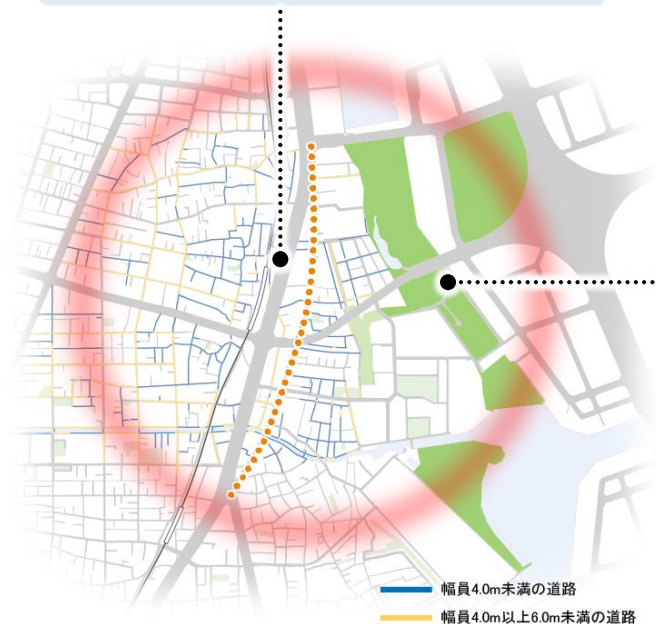
- ・ 大地震が発生した際の延焼火災対策が必要
- ・ 避難路となる幹線道路沿道の建物の不燃化対策が必要

#### 【公園等】

- ・ 大規模公園、スポーツ施設の周知強化と利活用促進

#### 【その他】

- ・ 歩いて楽しめる空間づくりと地域交流拠点の整備
- ・ 臨海部への回遊促進に向けた新たなモビリティの活用検討





### 3.まちの将来像

#### 将来像

## 江戸の風情と浜風を感じ、 自分らしくいきいき過ごせる平和島



#### まちの将来像設定の考え方

##### 考え方①

地区の特徴である「海が近い」「旧東海道(美原通り)の歴史」などのキーフレーズを入れる

例:「海」、「潮風」、「浜辺」、「旧東海道」、「江戸の風情」

##### 考え方②

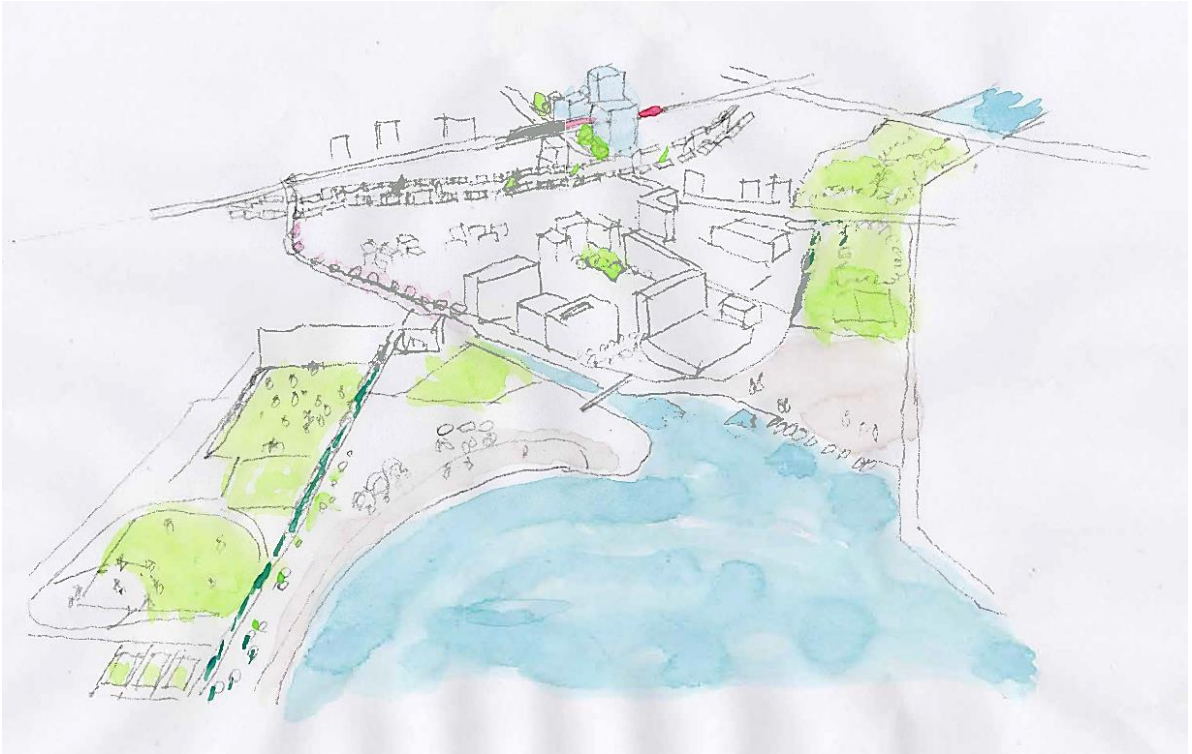
地域住民や訪れる人が肉体的・精神的・社会的に満たされるまち(=ウェルビーイング)に関連するフレーズをいれる

例:「自分らしく時間を過ごせる」、「いきいき」、「楽しく」

##### 考え方③

文尾を「～平和島」で締める

## 将来イメージ(南東側から地区を臨む)



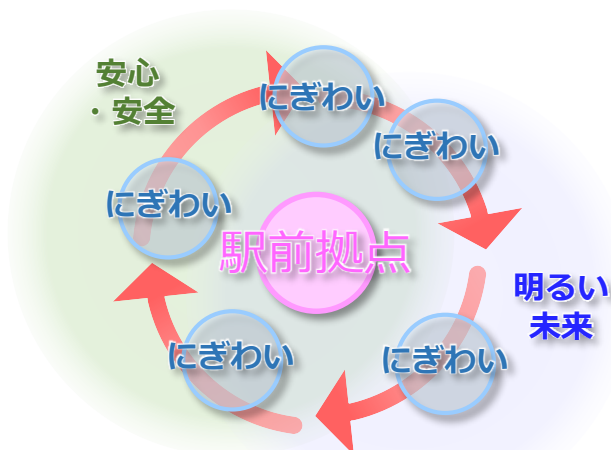
羽田空港やターミナル駅などへのアクセスの優位性から、都心部や臨海部とのネットワークの中でまちの魅力が増しています。江戸の風情が感じられる美原通り、潮風香るふるさとの浜辺公園、スケールの大きい緑を感じられる平和の森公園など、特徴的な地域資源の魅力がさらに向上しています。

駅周辺では都市機能が充実し、人々は自分に合った交通手段で自由に移動し、まちの中に回遊性と賑わいが生まれています。そこで暮らす人のみならず、働く人や他地域から訪れる人も含めて自分らしくいきいきと過ごせるまちになっています。

## 4.まちづくりの基本的な方針と具体的な取組

### 5つの分野別方針

将来像の実現に向け、分野別に方針を5つ設定します。公民連携の取組を初めとしたさまざまな取組を推進します。



#### 1 魅力ある玄関口をつくる 駅前機能の充実

平和島駅および駅直近においては駅前のにぎわいを地区全体へ波及させるため、国道の横断環境など交通利便性の向上や空間の充実など駅前として必要な機能の充実を目指します。

#### 2 人々を引き寄せる にぎわいの創出

地区の魅力をより一層向上させるため、美原通りを始めとした商業の活性化、大規模公園やスポーツ施設の整備や活用など、人々が活気にあふれにぎわうまちなかを目指します。

#### 3 まちなかに人々を誘う 回遊性の向上

地域住民や来街者の円滑な移動を実現するため、交通モードや移動環境の充実を図るなど、点在する魅力ある商店街や地区資源間の回遊性が向上したまちを目指します。

#### 4 住む人・訪れる人を支える 安心・安全の確保

やすらぎのある快適な都市環境を構築するため、大規模災害に対応する強靱な都市基盤の形成や地域の連携強化などにより安心・安全が確保されたまちを目指します。

#### 5 持続的に発展に寄与する 明るい社会の実現

未来にわたり持続的に発展していくため、先端技術を活用しながら地球環境や人に優しい取組を実施するなど誰もが暮らし続けることが出来る明るい未来が実現するまちを目指します。

## 方針別の取組

### 1 魅力ある玄関口をつくる「駅前機能の充実」

#### ① 駅前の円滑な移動を支える歩行者空間の創出

駅前滞留空間の不足により、通勤時間帯において歩行者の妨げとなっていることを解消するため、公共施設の再編や民間事業者における建替えの機会を捉え、公民連携により歩行者が安全に滞留できる空間の創出を検討します。

#### ② 駅・駅周辺における利便性・にぎわいの向上

駅ビル等の建替えや機能更新に際しては、利便性と回遊性の向上及び駅周辺におけるにぎわいを創出するため、鉄道事業者と連携を図ります。また、子育て世代に配慮した商業機能等の配置誘導に努めます。

#### ③ 交通モード間の乗継利便性・快適性の向上

大森東交差点に設置されているバス停留所等や乗継換空間の改善を図るため、第一京浜における横断環境の改善を検討するとともに、駅周辺街区の公共施設の再編や民間事業者における建替えの機会を捉え、公民連携により待合空間の充実を検討します。

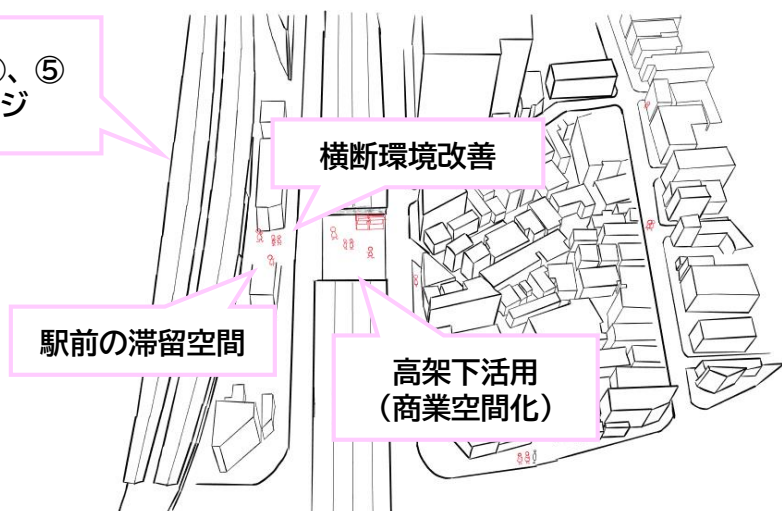
#### ④ ゆとりある空間の創出によるにぎわいの向上

人々が留まりにぎわいあふれるゆとりある空間を創出するため、共同化等を促進するとともに、公共空間と連続したオープンスペースの整備を誘導します。また、共同化等に際しては脱炭素化やレジリエンス強化を促進します。

#### ⑤ 限りある都市空間の利活用による魅力の向上

駅周辺における利便性の向上やにぎわいの創出を図り、駅からまちへ人を促すため、高架下を始めとした公共空間や民間事業が有する空間など限りある都市空間について、公民連携により有効活用について検討します。

1カットで①、②、③、⑤  
を表現するイメージ



## 2 人々を引き寄せる「にぎわいの創出」

### ① 歴史的資産を活かしたまちなみの形成

美原通り等においては、旧東海道という歴史を活かしたまちなみの形成を図るため、「大田区景観計画」に基づき、地元商店街におけるまちづくりへの機運の高まりに応じて、良好な景観形成の実現に向けた無電柱化などの方策について検討します。



### ② 人々が集い多様な活動を支えるまちなかの形成

地区の魅力向上させ、まちなかのにぎわいを創出するため、道路空間等を活用した歩行者の利便増進と滞在快適性の向上に資する民間の主体的な取組を支援するなど、まちなかづくりについて公民連携で取り組みます。

### ③ 公民連携による地区の魅力・競争力の向上

公民が未来のビジョンを共有し、接続可能なまちづくりを推進するため、地域活動に関わる新たな人材や資源の発掘やタウンミーティング、イベントを通じて、更なる地域の活性化につなげる試みに取り組みます。

### ④ 多様なライフスタイルを支える商業の活性化

商店街の持続的な運営とにぎわい創出のため、商業の担い手を育成・支援、商店街のイベントの開催、商店街・個店の魅力を発信する戦略的なPR活動を支援します。

### ⑤ 公園やスポーツ施設等の活用促進

公園やスポーツ施設等の魅力ある資源を最大限に活用し区民・外来者を惹きつけるため、平和島公園をはじめとする大規模公園のさらなる魅力の向上を図ります。また、スポーツ施設が集積する強みを活かし、様々なイベントを行います。



### ⑥ プロモーションの強化・充実

大規模公園や歴史的資産、商店街の魅力などについて興味・関心の喚起を図るため、各種事業者と連携し様々なツールを活用して国内外へ情報発信します。

### 3 まちなかに人々を誘う「回遊性の向上」

#### ① 自転車活用環境の充実

暮らし・健康・観光の観点から自転車を楽しく活用してまちなかの回遊を促すため、シェアサイクルの推進を始め、自転車利用促進や利用環境の向上、自転車利用者の受入環境の充実等について推進します。

#### ② 誰もが移動しやすい交通モードの充実

地域住民のみならず来街者にまちなかや点在する地区資源への回遊を促すため、マルチモビリティの導入や走行環境について交通事業と検討します。



#### ③ シームレスな移動を支える交通サービスの導入

シームレスな移動の実現と地区資源への移動を喚起するため、多様な移動手段を跨いだ経路検索、予約・決済を一括で行うサービス（MaaS）の導入に向けて交通事業等と連携して取り組みます。



#### ④ 自転車駐車場の整備等による良質な駐輪環境の創出

多様なニーズに対応した利用しやすい駐輪環境を創出するため、鉄道事業者等と連携して将来需要予想を踏まえた駐輪場の整備・再編に向けた検討を進めるとともに、放置自転車の防止対策に取り組みます。

#### ⑤ 駅・まちを円滑につなぐ移動支援の拡充

公共交通間の円滑な乗換や駅からまち（地区資源）へわかりやすく誘導するため、様々な主体との連携により、サイン整備のほかスマートフォンやデジタルサイネージの活用などの個人の属性に応じた歩行者移動支援情報の提供について検討します。

## 4 住む人・訪れる人を支える「安心・安全の確保」

### ①災害に立ち向かう市街地の形成

災害時の被害を低減させるため、建物の耐震化・不燃化を促進するとともに、環状七号線沿道においては防災上有効な沿道環境の形成を促進します。また、都市機能の早期回復を実現するため、ライフラインの機能障害防止を進めます。

### ②風水害に強い市街地の形成

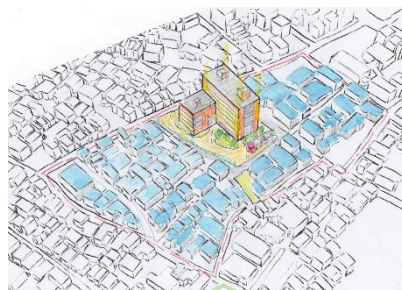
近年頻発する集中豪雨などによる都市型水害へ対応するため、建築物の建替え等に併せて雨水流出抑制施設、雨水貯留施設の整備や電気設備の上層階設置など水害対策を働きかけます。

### ③地域力を活かした防災力の向上

地域住民一人ひとりの防災意識の向上を図り地域の防災力を高めるため、防災訓練や防災講話等を実施するなど災害対策への周知・啓発を継続的に行います。

### ④地域力を活かした防犯力の向上

地域力を活かした安全な住環境を確保するため、地域住民の主体的なパトロール活動や、防犯カメラや防犯灯の設置を支援します。



①を表現

## 5 持続的に発展に寄与する「明るい社会の実現」

### ①環境負荷低減・脱炭素化の推進

地球環境に優しい地区を実現するため、建替え等の機会を捉え環境性能の高い建築物を誘導するとともに、公共施設を新築・大規模改修する際にはZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の基準を目指します。

### ②ユニバーサルデザインのまちづくり

高齢者、障がい者及び来街者等が安全で快適に活動できるよう、ユニバーサルデザインの視点に基づき道路や公共施設を整備するとともに、公共交通機関や民間建築物についても事業者等と連携して進めます。

### ③先端技術を駆使した環境の構築

安全で質の高い都市活動を実現するため、次世代通信インフラを始め、ICTなど先端技術を駆使した都市環境を目指します。また、水素など次世代エネルギーの利活用拡大に向けた取組状況等も踏まえ、SDG s 未来都市である区のと組発信とにぎわいの創出に寄与する拠点の整備について検討します。

### ④だれもが笑顔でいきいき暮らす環境の創出

社会全体で包む込むように、支えあう考えが日常に溶け込み、つながりを感じるまちを目指し、（※以降、基本計画の進捗に応じて記載）



大田区都市マスより  
②をイメージ（例）



大田区都市マスより  
①をイメージ（例）

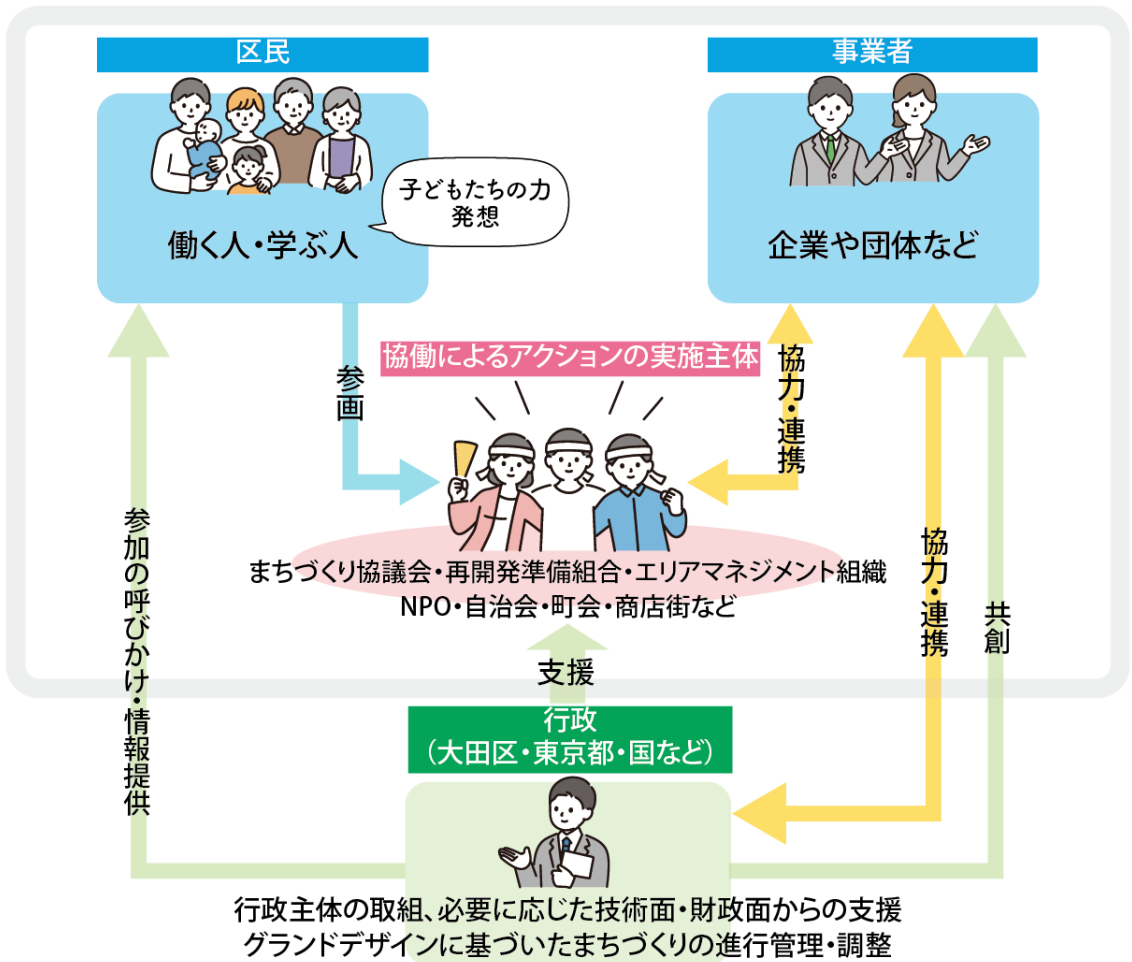


## 5. 将来像の実現に向けて

### 協働によるまちづくりの推進

区民や事業者等が取組の主体として、それぞれの力を最大限に生かし、まちづくりの取組を進めていくことが将来像の実現に繋がります。行政は、様々な手法を活用しながら、区民や事業者の皆様を支援していくことで、公民連携のまちづくりを推進します。

### 一人一人の力が、平和島を変える 新たなまちを創る



## 実施手順(ロードマップ)

グランドデザインの実現に向けて、各取組を整理しました。計画的にまちづくりを推進していきます。

### 20年間のロードマップ

		短期	中期	長期
駅前拠点 の充実	① 駅前の円滑な移動を支える歩行者空間の創出	●	●	●
	② 駅・駅周辺における利便性・にぎわいの向上	●		
	③ 交通モード間の乗継利便性・快適性の向上	●	●	●
	④ ゆとりある空間の創出によるにぎわいの向上	●	●	●
	⑤ 限りある都市空間の利活用による魅力の向上	●	●	●
来訪者を 惹きつける にぎわい の創出	① 歴史的資産を活かしたまちなみの形成	●	●	●
	② 人々が集い多様な活動を支えるまちなかの形成	●	●	●
	③ 公民連携による地区の魅力・競争力の向上	●		
	④ 多様なライフスタイルを支える商業の活性化		●	●
	⑤ 公園やスポーツ施設等の活用促進	●	●	●
	⑥ プロモーションの強化・充実	●	●	
回遊性 の向上	① 暮らしやレジャーを楽しむ自転車活用環境の充実	●		
	② 誰もが移動しやすい交通モードの充実	●	●	
	③ シームレスな移動を支える交通サービスの導入		●	●
	④ 自転車駐車場の整備等による良質な駐輪環境の創出	●		
	⑤ 駅・まちを円滑につなぐ移動支援の拡充		●	●
安心・ 安全な 環境の整備	① 災害に立ち向かう市街地の形成	●	●	●
	② 風災害に強い市街地の形成	●	●	●
	③ 地域力を活かした防災力の向上	●	●	●
	④ 地域力を活かした防犯力の向上	●	●	
明るい未来 の実現	① 環境負荷低減・脱炭素化の推進	●		
	② ユニバーサルデザインのまちづくり	●	●	●
	③ 先端技術を駆使した環境の構築	●	●	●
	④ 誰もが笑顔でいきいき暮らす環境の創出	●	●	●

● 実施・実施に向けた検討・調整    ● 継続

## 6.資料

### 策定の経過

#### 1 策定の体制

令和6年3月に「平和島駅周辺地区グランドデザイン策定専門委員会」を設置し、区役所内における「平和島駅周辺地区グランドデザイン策定庁内委員会」と連携を図りながら、平和島のまちの将来像、まちづくりの方向性等について検討を進めました。

#### 2 平和島駅周辺地区グランドデザイン策定専門委員会

(敬称略)

役職	氏名	職名
委員長	二井 昭佳	国土館大学 理工学部 まちづくり学系 教授
副委員長	佐瀬 優子	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教育技術嘱託

#### 3 策定の経過

	令和6年												7年
	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
庁内委員会※1	15日 ●	29日 ●					3日 ●		●				●
専門委員会※2					22日 ●		17日 ●			●			●

※1 平和島駅周辺地区グランドデザイン策定庁内委員会

※2 平和島駅周辺地区グランドデザイン策定専門委員会

#### 4 大田区区民意見公募手続（パブリックコメント）

素案の説明・周知を図るとともに、区民等の皆様から意見を広く収集・反映させるため、ご意見を募集しました。

実施時期 令和6年 11月下旬～12月上旬

概要 策定に対するご意見を、郵送・持参・ファクシミリ・電子申請にて募集

参加者・回答数